

オープンアクセスへの移行を推進する

Liz Ferguson*, Ben Townsend*

現在、オープンアクセス（OA）は、全出版論文数のうち約30%を占め、STM（理工医学）出版全体を大きく上回る速度で成長している。その背景には、欧州を中心とするOA推進政策がある。その中で近年特に影響力を持ったのがcOAlition Sだが、そのポリシーには賛否がある。Wileyを含む各出版社は、新規OA誌の創刊、既存誌のフルOAへの転換（フリップ）などの方法を通じて、OA出版へのニーズの高まりに対応してきた。中でも近年普及が著しいtransitional agreement（転換契約・TA）について、Wileyが独Projekt DEALと結んだ契約などを例に、その仕組みや影響力を検討する。

キーワード：オープンアクセス、OA、オープンサイエンス、cOAlition S、transitional agreement、転換契約、Projekt DEAL

 本稿は、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) ライセンスの下に提供する (<http://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>)。

1. はじめに

現在、オープンアクセス（以下OA）は、全出版論文数のうち約30%を占める¹⁾。本稿では、OAの現状と政策環境、また研究者・研究機関・ファンダー（研究助成機関）からのOAに対する需要の高まりに、出版社がどのように対応しているかを述べる。これを、Wileyでの過去10年以上のOAの経験から説明する。

本稿では主に、出版後即時に無料でダウンロードかつ再利用可能であることと定義されるゴールドOAについて述べる。多くの場合、APC（Article Publication Charge）が支払われている。

2. OAの市場規模

OAの成長は、ここ数年間、購読モデルのコンテンツの成長を上回っている。Delta Think社の報告¹⁾では、2018～2019年にかけてのOAからの収益の成長率は13%で、その後減速して10%に落ち着く見通しだが、それでもSTM（理工医学）出版全体の予想成長率2.9%を著しく上回る状態が続くとされている²⁾。Delta Think社とSimba社¹³⁾の双方とも、出版後即時にOAとなる論文は、全論文のうち30%のシェアを占めると見ている³⁾。Piwowarらは、全ての形態のOAが、2019年の論文市場で31%のシェアをもつという同様の結論を導くとともに、そのシェアは2025年までに44%に達すると予測している⁴⁾。本稿執筆の時点で、Directory of Open Access Journals (DOAJ)は、ジャーナル16,507誌を収録し、それらで2020年に出版されたOA論文は776,000本以上としている。

3. OAポリシーの展開

2022年に20周年を迎えるBudapest Open Access

Initiativeは、2003年のBerlin Declaration on Open Accessと並んで、現在に至る変化を勢いづけた。現在、ROARMAP (Registry of Open Access Repository Mandates and Policies)⁵⁾は、有効なOAポリシーが1,000を超え、そのうちファンダーとその関連団体が作成したものは150近くであると報告している。また半数以上のポリシーが、欧州の研究機関かファンダーに属している。

欧州は、長年OAを最前線で推進してきた。2011年後半に始まった研究の成果であるFinch Reportは、研究機関がOAに関連する費用をまかなえるよう支援するために包括的な助成金を伴うRCUK (Research Councils UK)の改訂につながった。Wellcome Trust (現Wellcome)が定めた、研究助成の成果物たる論文を出版後即時にオープンに公開すべきという要件と相まって、英国でOA出版される論文の比率は、世界平均を上回るようになった。2017年の報告書‘Monitoring the Transition to Open Access 2017’⁶⁾によると、2016年に出版後即時にOAで公開された論文の割合は、世界全体の25%に対し、英国では37%であった。2015年、英Jiscは、Springer (現Springer Nature) およびWileyと、それぞれ契約を締結した。そこには、英国の大学がジャーナル購読とOAに資金を拠出する代わりに、論文著者がSpringerのハイブリッド・ジャーナルで無制限に論文をOAで出版でき、またWileyに支払ったAPCを翌年度の契約金額から控除できることが盛り込まれた。

2016年、欧州連合理事会議長国であったオランダは、オープンサイエンスについて2日間の会議を主催し、その成果が、Amsterdam Call for Action on Open Science⁷⁾となった。この報告は、データをオープンに共有する文化の推進と、2020年までにEU加盟国内で公的助成を受けた研究に基づく全論文をOAで出版することを勧告した。学会、ファンダー、出版社、機関の代表者からなるフォーラムとして新設されたOpen Science Policy Platformのメンバーが、広範囲にわたるフォローアップが実施した。

*Liz Ferguson, Ben Townsend, John Wiley & Sons, Inc.

(原稿受領 2021.7.16)

OA ポリシーに関する近年の展開の中で最も影響が大きかったのは、2018年に発足した cOAlition S である。cOAlition S は、EU OA 特使である Robert-Jan Smits 氏の主導により、European Research Council および Science Europe の支援を受けて、公的ファンダーや、Wellcome と Bill & Melinda Gates Foundation のような慈善団体の参加を得た。cOAlition S の目標は、完全かつ即時の OA への移行を加速することであった。

「2021年以降、国・地域および国際的な学術団体とファンダーが提供する公的または私的な助成を受けた研究結果に関する学術出版物はすべて、OA ジャーナルか OA プラットフォームで公開するか、または OA リポジトリを通じて猶予期間なしで即時に入手可能な形で出版されなければならない。」⁸⁾

この目標は、10の原則で構成されている。その中で原則8は、ファンダーによる助成は transformative arrangement の範囲に限られるという、OA への移行において最も緊張を孕んだ課題のひとつを取り上げている。

cOAlition S の参加機関から助成を受ける研究者には遵守義務が課され、次の方法によって OA 出版を行わなければならない。

1. OA ジャーナルまたは OA プラットフォームで
2. ハイブリッド・ジャーナルで。ただし：transformative agreements (転換契約・TA) の範囲内に限る
3. Plan S の条件を満たす transformative journals (転換ジャーナル) で
4. 論文の Version of Record (正式公開版) または accepted manuscript (採択された著者原稿) を、Plan S の技術的要件を満たすリポジトリで、また CC-BY ライセンスで公開することによって

cOAlition S はまた、一連の運用ガイドラインを発表し、フィードバックを募った。その結果は、Zenodo 上で公開されている⁹⁾。寄せられた回答には、Plan S の方針への歓迎の声が含まれる一方、研究者に混乱を引き起こす可能性への懸念もあり、また大手出版社の立場をさらに強固にする、あるいはすべての出版社の存続を危うくするとの懸念まで様々であった。600人以上の研究者からの回答のうち特に目立ったのは、生化学者 Dr Lynn Kamerlin による¹⁰⁾、cOAlition S が提案する実現の仕組みに反対する一方、オープンサイエンスの根幹をなす目標を支持したものであった。

cOAlition S は、後に運用計画の改訂を多数発表したか、その中に権利保持ポリシーの導入がある。これは、論文著者が著作権など様々な権利を保持すること、Version of Record を除くすべての版を CC-BY ライセンスの下で利用可能とすることを要求する。同ポリシーのうち特にこの項目が、出版社から強い反対を集め、例えば最近の国際 STM 出版社協会の声明では、50以上の出版社がこの出版

方法の拒否を表明した¹¹⁾。

4. OA の推進における出版社の役割

出版社は様々な方法を通じて、OA 論文が全体の 30% を占める現在の状況を実現してきた。本項では、一般的な原則について議論するとともに、Wiley が経験してきた具体例を提示する。

4.1 OA ジャーナルの創刊

過去 10 年の間に、Wiley は広範な分野で新たな OA ジャーナルを創刊してきた。同時に、代表的な学会誌出版社として、学会パートナーの OA への移行を支援してきた。本稿執筆の時点で、Wiley はフル OA ジャーナル 230 誌以上を出版し、そのうち 50% 以上は学協会との共同出版による。2021 年 1 月、フル OA 出版社である Hindawi 社の買収により、Wiley の OA ジャーナルのタイトル数は倍以上に増えた。

4.2 フリップ (OA への転換)

OA ジャーナルの創刊に加えて、既存誌をハイブリッドモデルからフル OA にフリップ (転換) することは、出版戦略の重要な側面である。

あるジャーナルがフリップすることの是非とその時期に影響を与える要因は多く存在する。ある種のジャーナルでは、OA への転換は収益の減少をもたらす、新たな収益源の開拓や業務プロセスの再構築に時間を要する。一方、OA への転換によって、収益の維持や増収を図る出版社もある。財務的な事情に加えて、対象となる研究コミュニティ、エディターや編集委員会などのステークホルダーが OA を受け入れる用意ができていたかといった要因も影響する。Wiley の経験では、購読型ジャーナルを長年担当してきたエディターが、OA への転換に懸念を持つことは珍しくない。2020 年に OA に転換した Ecography 誌の Editorial が、有益な考察を提供している¹²⁾。

ジャーナルを OA に転換する道のりは長く、エネルギーを要する。Wiley の経験では、ジャーナルが論文著者のコミュニティに対して時間的な余裕をもって転換の必要性を伝えることができれば、転換はより成功しやすくなる。

Matthias らは、ジャーナル 152 誌が OA から購読モデルへと「逆転換」したことを報告したが¹³⁾、その原因が OA への転換に向けての計画の欠如にあったかは定かでない。Wiley は、十分な計画の下、2020 年までの 10 年間で 50 誌以上の OA への転換を成功させたが、今後 5 年にわたり、この転換をさらに加速させたいと考えている。2020 年、Wiley は Institute for Engineering Technology (IET) との革新的なパートナーシップにより、そのジャーナル 27 誌をフリップさせた。2022 年には、現在のハイブリッド・ジャーナル 20 誌以上を OA に転換し、転換の加速化を明確に示す予定である。

4.3 Transformative (転換) ジャーナル

出版社が OA への転換に対処する別のしくみとして、cOAlition S による transformative ジャーナルとしてのステータスの取得をめざす方法がある。cOAlition S の参加機関から助成を受けた研究者は、論文をそのようなジャーナルで出版すれば要件を満たせる。これまでに、一部またはすべてのジャーナルが転換ジャーナルと認定された出版社として、Springer Nature、Elsevier、Royal Society など 14 社が cOAlition S のウェブサイトに掲載されている¹⁴⁾。転換ジャーナルの出版社は、掲載する原著論文の 75%以上が OA に達する時点までにフル OA 誌に転換することを約束するとともに、OA 論文の比率 (%) を前年より絶対値で 5 ポイント増加、または相対値で 15%増加させるという 2 つの基準で、毎年 OA 論文の増加を示さなければならない。

Delta Think 社による最近の分析¹⁵⁾によると、現在転換ステータスが認定されている 2,200 誌以上の大半が、転換ステータスの維持に必要な OA コンテンツの増加を達成していない。

4.4 Transformative agreements (TA)

出版社とコンソーシアムとの TA の発表は、ますます頻繁に行われている。transitional ないしは Read and Publish 契約としても知られる TA の形は様々だが、共通の特徴を持っている。

1. 条項の平等性。契約の対象となる全ての著者に、確実な OA 出版と著作権の保持を可能とするもので、個人の支払い能力に基づいて除外される著者がいてはならない。
2. 契約の透明性の確保。TA の多くは ESAC レジストリに登録され、一般に公開される¹⁶⁾。これは、出版社との契約中の機密保持条項を削除することによって実現した。
3. サービス。出版社は、研究者と TA 管理者の両方へのサービスの提供が期待される。
4. 注目する対象と支払いを購読から OA へとシフトする。これが、おそらく最も根本的な特徴である。契約の内容や厳密な構成の違いを問わず、支払われる料金と活動の焦点は、論文の閲覧から出版へとシフトする。

こうした 4 つの原則の下であっても、各コンソーシアムの事情に応じて、それぞれの契約にかなりの裁量の余地が残されている。例えば、Wiley などの契約では、出版するすべてのジャーナルが対象となるが、他の契約では特定のタイトルが除外される。除外対象となるのは、学協会が所有するジャーナルや、非常に採択が厳しいタイトルであることが多い。OA 出版の論文数に上限が設けられることも、無制限とされることもある。閲覧から出版への費用の移行は、契約期間を通して段階的に進むこともあれば、短

期間で進む場合も、言及されない場合もある。

TA を、より厳密に定義する試みもある。Borrego らによる分析¹⁷⁾は特に説得力のあるもので、TA を「TA の前段階」「部分的な TA」「完全な TA」の 3 つに分類している。彼らは「TA の前段階」を、大部分は購読ベースであるが、主に APC 料金の割引やバウチャーによる OA に関する条項を含むような種類の契約と定義する。一方「部分的な TA」は、論文の閲覧と出版に対する支払額の間には明確な区別を設けて、出版に対する支払額によってコンソーシアムとして相当数の OA 出版を認めるような契約である。「完全な TA」は、独 Projekt DEAL と Wiley や Springer Nature の契約のように、OA 出版する論文数に上限を設けない契約を指す。これらの定義は、TA をめぐる状況を整理するのに役立つが、Wiley は、TA をこのように厳密に定義するよりも、TA の根底にある原則に注意を向け、それによって市場の進化に応じるための柔軟性を保持するほうが重要と考える。

5. TA の進化

TA の始まりは、2015 年に Springer Nature と Wiley が英 Jisc と締結した契約や、さらにそれ以前にも遡る。しかし、TA の増加が特に加速したのは、最近 3 年間のことである。

多くの出版社が、こうした TA の加速化に先立ち、社内的な検討を大掛かりに行っている。Wiley 社内での検討は、cOAlition S の発足前だったが、主に欧州内でのポリシーの展開と、同様に欧州を中心とする顧客からの圧力の高まりを契機とした。論文のオープンな出版を求める研究者の欲求の高まりにも後押しされた。重要な試みが、Projekt DEAL の主導で交渉が進んでいたドイツで行われた。Projekt DEAL は、German Reactors Conference (ドイツ大学学長会議) のメンバーで構成される新しい組織で、Alliance of German Science Organisations により、Wiley を含む三大出版社と大規模な TA の交渉を任されていた。Wiley は、学術界のリーダー・ファンダー・政府がポリシーや要件の策定に留まらず、交渉自体に能動的に参加することを、ドイツやその他の各国で経験していた。

社内で結論を出す前に、市場の力学、地理的およびセクター上の相違、変化の速度、競合出版社の行動や今後の行動の予想など、数多くの要因を評価した。Wiley の出版パートナーである多くの学会のニーズも考慮した。この作業からは直ちに明確な答が得られなかったが、仮説を検証するための複数のシナリオが得られた。

現在 TA に携わっている出版社の多くは、その規模を問わず、同様に集中的な社内レビューを経験したはずである。Mellins-Cohen と Redvers-Mutton¹⁸⁾ は、Microbiology Society (微生物学会) のジャーナルを OA に移行するにあたって考慮した点を詳細に語っている。それによると、Wiley の場合と同様に、論文数の推移、収益源、論文著者の地理的分布に関するデータや、世評に関わる判断などが考慮された。

小規模な出版社、特に学協会出版社の OA への移行を支援するプロジェクトが増えている。その中で最大級のものには、Society Publishers Accelerating Open Access and Plan S (SPA-OPS) として知られる。これは、Wellcome, UKRI (ともに Plan S の参加機関) と ALPSP (Association of Learned and Professional Society Publishers) の支援を受けて、Information Power 社が企画したプロジェクトである。その結果を受けて Information Power 社は、特に学協会出版社向けに、顧客との TA 交渉を支援する実用的なツールキットを開発した¹⁹⁾。そこには、出版論文数と支出に関するデータをコンソーシアムに提示するためのテンプレートや、契約書とライセンスのひな型が含まれる。一方、TA の交渉経験が豊富なコンソーシアムが、他のコンソーシアムのためにツールキットを開発することもあり、その一例がカリフォルニア大学である²⁰⁾。

6. TA の普及

ESAC の TA レジストリは、世界各地での TA の進捗に関する豊富なデータを提供している。

2021 年 6 月 28 日の最新のアップデートでは、ESAC レジストリに、2014 年以降で 35 カ国・47 の出版社を網羅する 324 の TA 情報が含まれている。そういった TA の大多数は欧州諸国のものだが、ほかにサウジアラビア・カタール・オーストラリア・日本・中国・米国・南アフリカといった国々の TA も含まれる。現在有効な 258 の契約から、年に 115,000 本以上の OA 論文が生まれている。ESAC の独自の分析²¹⁾によると、対象となる OA 論文数は 2021 年には 138,000 本に達すると見込まれている。

7 つの国では、TA とフル・ゴールド OA を合わせると、出版直後から OA で公開される論文の比率が 70% を超えている。そういった国々には、オランダ、オーストリア、スウェーデンなど、早期に OA 移行を実施した国が多いが、アイルランドは、その移行が短期間で達成可能なことを示した。その推進役となった IReL コンソーシアムは、OA への迅速な移行を進めるために周到な準備を行い、2020 年 1 月以降に 18 の契約を締結した。ゴールド OA と合わせると約 3,500 本の論文を生み出し、アイルランドの全出版論文の 75% を OA 化していることになる。

7. TA における Wiley の経験

Wiley は現在 14 の TA を結んでいる。大多数が欧州内の契約で、大きく次の 2 つに分かれる。

1. Publish and Read : Projekt DEAL が唯一の例である。ハイブリッド・ジャーナルで OA 出版される各論文に掲載料 2,750 ユーロが課される。また、フル・ゴールド OA 誌の APC は、通常料金の 20% 引きとなる。すべての対象機関は、Wiley の購読モデル・コンテンツすべてにアクセス権を持つ。年間料金は、出版論文数によって決まる。
2. 一定の料金で、Wiley の購読モデル・コンテンツの

全データベースまたは以前の購読コンテンツへのアクセス権が得られる。料金の一部は APC の原資になり、論文が OA で出版されると、割引された APC がそこから引き落とされる。フル・ゴールド OA 誌が対象に含まれる契約も、そうでない契約もある。

1. のモデルでは、著者が選べば、すべての論文を OA で出版できる。
2. のモデルでは、契約期間(多くは 3 年間)を通じて、段階的に OA に移行することになる。

これらの契約がもたらす影響は大きい。Projekt DEAL との契約の前は、ドイツの corresponding author (責任著者) が Wiley のハイブリッド・ジャーナルで論文を出版する際に、OA を選択する比率は 7.5% に過ぎなかった。契約後 2 年目となる 2020 年末までに、OA 出版が可能であるにも関わらず辞退した著者はわずか 7% で、2021 年半ばの現在、その率は 5% まで低下した。同じ期間に、ドイツからゴールド OA で出版された論文数は、約 60% の増加を示した。論文閲覧のためのアクセス権の拡大も、明らかにメリットをもたらした。ドイツでの Wiley 論文のダウンロード数は、2018 年から 2020 年にかけて 50% 近く増加した。一方、英国では、Jisc と Wiley との契約により、2020 年にハイブリッド・ジャーナルで受理された論文の 70% 以上が OA 出版を認められ、前年の 40% を大きく上回った²²⁾。最近のホワイト・ペーパーで Wiley が報告した通り、OA 論文のダウンロード数は平均で購読モデルの論文の 3 倍に達し、被引用数は約 2 倍となっている²³⁾。

同様の傾向は他の TA にも見られる。著者が OA に慣れるにつれ、OA の選択への拒否が減る一方、利用制限が最少の CC-BY ライセンスを選ぶ著者が増えている。Open Access Scholarly Publishers Association によると、加盟出版社の 2020 年の論文中、CC-BY ライセンスの比率はフル OA 誌で 88%、ハイブリッド・ジャーナルで 66% であった²⁴⁾。

8. 移行の実現

TA では、出版社もコンソーシアムも等しく OA への支援を求められる。一例として、Wiley と Max Planck Digital Services は協力して、Projekt DEAL 契約の実現のために、機関の関心度の向上、論文著者のワークフロー、アクセスの提供から運用上のミスへの対応までを取り扱う 11 の作業部会を支援した。契約に関わるステークホルダーには、例えば研究者、図書館員、学長、ジャーナルの編集委員、学協会、Wiley のスタッフなどが含まれる。図書館員は、契約の成功に重要な役割を持つ。具体的には、交渉、契約の開始段階、論文著者への広報、各種の意見提供、進捗状況のレビューなどが挙げられる。

9. 変化の速度

変化が加速していることは疑いない。ESAC レジストリが始まった 2014 年に記録された TA は 2 件しかなかった

た。今年、その数は135件にのぼる。2018年、Wileyが出版したOA論文は約24,000本だった。その数は、2020年末までに倍以上の55,000本に達したが、その一因がTAの増加にあることは間違いない。その一方で、同じ期間にWileyが購読モデルで出版した論文数が安定していることも見逃せない。(図1)

図2は、Wileyの出版論文全体に対してTAがもたらした影響を示している。2018年、Wileyの出版論文のうち、TAによってOA出版されたのは1%だったが、2020年には8%に増えた。同じ2018年、Wileyは、ハイブリッド・ジャーナル(TAおよびそれ以外)よりも、フルOAジャーナルで多くのOA論文を出版した。しかし2019年に両者はほぼ同数となり、2020年にはTAに基づくハイブリッド

OA出版が増加し、2018年の構図が逆転する結果となった。

10. 今後

Wileyは、今後多くのファンダーと機関がオープンな未来の実現に向けて取り組み、また出版社がオープンな未来への確信を高めるのに伴い、世界的にTAが著しく拡大すると予測している。cOAlition Sが課した2024年の最終期限が何らかの劇的な変化の引き金になるかどうかは、現時点では不透明である。その理由のひとつは、cOAlition Sは世界全体の論文の約6%しかカバーしていないからで、もうひとつは、この最終期限が非現実的だと言われてきたからである²⁵⁾。契約者はオープンで透明性のある環

Percentage growth of open access articles at Wiley 2018 - 2020

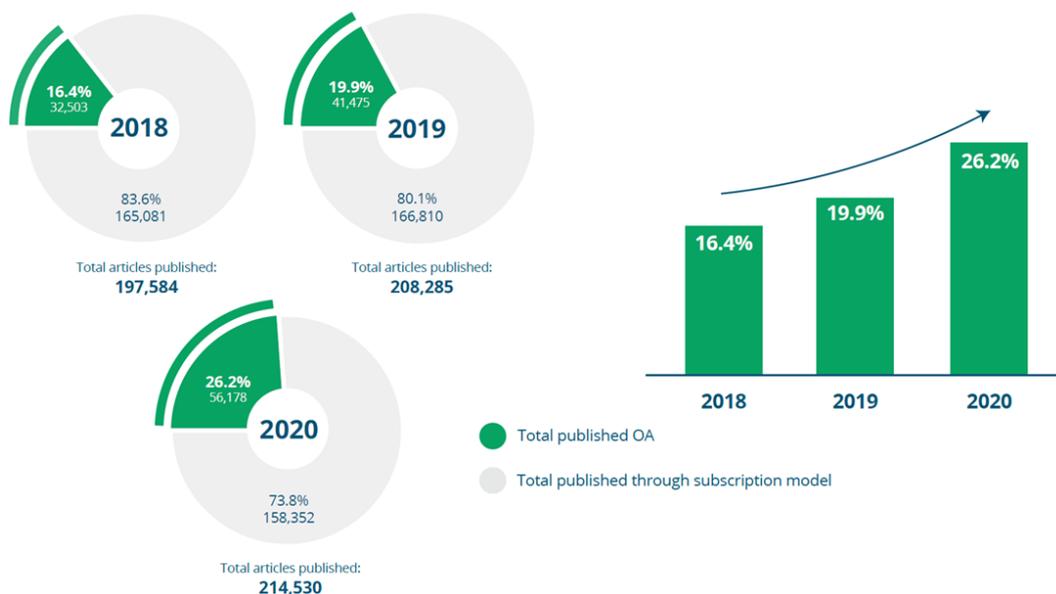


図1 Wiley ジャーナルに占める OA 論文の比率の増加 (2018~2020年)

Articles published within an issue, by article publication type

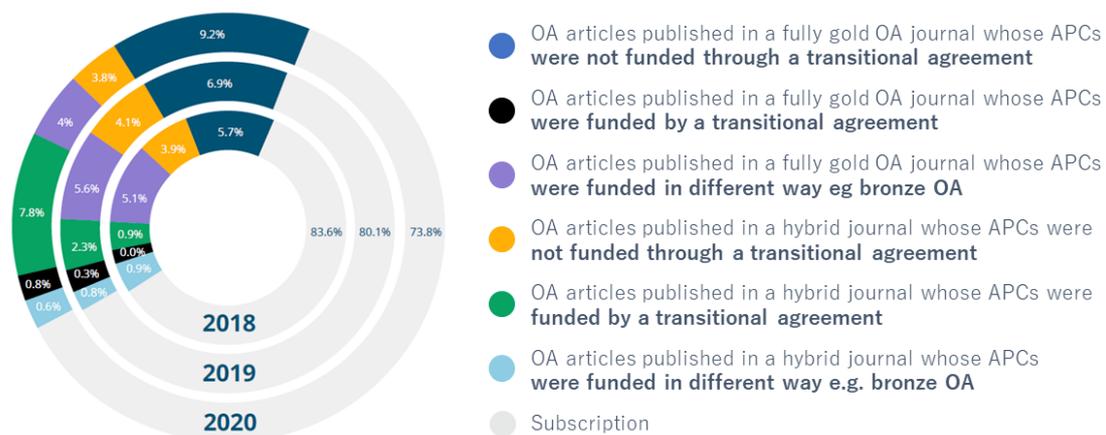


図2 Wiley ジャーナル中の論文の出版モデル別内訳

境から多くを学んでいるので、契約構造におけるイノベーションは今後も続くであろう。TAは、OAに至る他の様々な経路とともに展開を続けられると思われるが、それが最終的に成功を収めた時こそ、学術情報流通の世界は、OAへの完全な移行の最終地点に近づくと言えよう。

参 照 文 献

- 1) “News & Views: Open Access Market Sizing Update 2020”. Delta Think. <https://deltathink.com/news-views-open-access-market-sizing-update-2020/>, (accessed 2021-07-04)
- 2) McShea, J. Open Access: Danger at the Bottom Line. Outsell Inc report, 2 November 2018.
- 3) Simba Information. Open Access Journal Publishing 2020-2024. 25 June 2020.
- 4) Piwowar, H. et al. The Future of OA: A large-scale analysis projecting Open Access publication and readership. Preprint version 9 October 2019. BioRxiv <https://doi.org/10.1101/795310>
- 5) “Welcome to ROARMAP”. ROARMAP. <http://roarmap.eprints.org> (accessed 2021-07-31)
- 6) “Monitoring the transition to open access December 2017”. Universities UK. <https://www.universitiesuk.ac.uk/policy-and-analysis/reports/Pages/monitoring-transition-open-access-2017.aspx>, (accessed 2021-07-04)
- 7) “Amsterdam Call for Action on Open Science”. Government of the Netherlands. <https://www.government.nl/documents/reports/2016/04/04/amsterdam-call-for-action-on-open-science>, (accessed 2021-07-04)
- 8) “Plan S: About”. European Science Foundation. <https://www.coalition-s.org/about/> (accessed 2021-07-31)
- 9) “Feedback on the draft implementation guidance of Plan S”. cOAlition S. <https://zenodo.org/record/3250081#.YNBhki1Q1QM> (accessed 2021-07-31)
- 10) Van Noorden, R. Arguments over European open-access plan heat up. Nature News, <https://doi.org/10.1038/d41586-018-07386-x>
- 11) “Signatories publish statement on Rights Retention Strategy”. STM. <https://www.stm-assoc.org/rightsretention-strategy/> (accessed 2021-07-31)
- 12) Araujo, MB. et al. Ecography’s flip to a pay-to-publish model. Ecography. 2019, 42, p.1456-1457, <https://doi.org/10.1111/ecog.04791>
- 13) Matthias, L. et al. The Two-Way Street of Open Access Journal Publishing: Flip It and Reverse It. Publications. 2019, v. 7 (2), 23, <https://doi.org/10.3390/publications7020023>
- 14) “Plan S compliant Transformative Journals”. cOAlition S. <https://www.coalition-s.org/plan-s-compliant-transformative-journals/> (accessed 2021-07-31)
- 15) “News & Views: Transformative Journals”. Pollock, D.; Michael, A. <https://deltathink.com/news-views-transformative-journals/>, (accessed 2021-07-04)
- 16) “ESAC Transformative Agreement Registry”. ESAC. <https://esac-initiative.org/about/transformative-agreements/agreement-registry/> (accessed 2021-07-31)
- 17) Borrego, A. et al. Transformative agreements: Do they pave the way to open access? Learned Publishing. 2021, v. 34, n. 2, p. 216-232, <https://doi.org/10.1002/leap.1347>
- 18) Mellins-Cohen, T.; Redvers-Mutton, G. Transformation: The Future of Society Publishing. Insights. 2020, 33 (1): 1. <https://doi.org/10.1629/uksg.486>
- 19) Wise A, Estelle L. Society Publishers Accelerating Open access and Plan S (SPA-OPS) project. Wellcome Trust. Collection. 2019. <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.c.4561397.v3>
- 20) “Negotiating with scholarly journal publishers: A toolkit from the University of California”. The University of California Office of Scholarly Communication. <https://osc.universityofcalifornia.edu/uc-publisher-relationships/resources-for-negotiating-with-publishers/negotiating-with-scholarly-journal-publishers-a-toolkit/> (accessed 2021-07-31)
- 21) “Market Watch”. ESAC. <https://esac-initiative.org/market-watch/> (accessed 2021-07-31)
- 22) “Monitoring the transition to open access: Jisc-Wiley transitional agreement report”. Vernon, A. et al. <https://repository.jisc.ac.uk/8348/1/monitoring-the-transition-to-open-access-jisc-wiley-transitional-agreement-report.pdf>, (accessed 2021-06-01)
- 23) “Demonstrating the Advantage of Publishing Open Access With Wiley”. Wiley. <https://www.Wiley.com/network/researchers/researcher/demonstrating-the-advantage-of-publishing-open-access-with-Wiley> (accessed 2021-07-31)
- 24) “OASPA members’ output continues to grow, as does the use of CC BY licenses”. OASPA. <https://oaspa.org/oaspa-members-output-continues-to-grow-as-does-the-use-of-cc-by-licenses/> (accessed 2021-07-31)
- 25) “How to enable smaller independent publishers to participate in OA agreements”. Estelle, L. et al. Wellcome Trust. <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.14731308.v1>

Special feature: Changes in Academic Publishers’ Research Support Services. Driving the transition to Open Access. Liz Ferguson, Ben Townsend (John Wiley & Sons, Inc.)

Abstract: Open access (OA) now accounts for approximately 30% of all publishing output, growing much faster than the entire STM publishing industry. This growth has been driven by OA policy developments, especially in Europe. The most impactful policy development of recent years was the creation of cOAlition S, whose policies are often controversial. Wiley and other publishers are responding to demands for increasing open access typically by launching new OA journals and flipping existing journals to full OA. The mechanisms and the impact of transitional agreements (TA), which have grown remarkably in recent years, are explored through examples such as the Wiley agreement with Projekt DEAL in Germany.

Keywords: Open Access / OA / Open Science / cOAlition S / transitional agreement / Projekt DEAL